

だれでも楽しめる船旅・島旅

～一人ひとりにあったユニバーサルデザイン旅の手引～



「解説動画」



「手引書（冊子）」

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
バリアフリー推進部 高橋 徹

1. 作成の経緯と背景

背景

- ・新造船は、法的にバリアフリー化が義務付けられている
- ・そのため、新造するごとにバリアフリー化された旅客船は年々増えている（R5.3末 56.1%）
※ちなみに、エコモ財団では2002年度から日本財団の支援により、「海上交通バリアフリー施設整備助成」を実施し、旅客船のバリアフリー化（延べ291隻）に助成している

障害当事者のイメージ

- ・旅客船の利用は、障害のある人に浸透していない
- ・旅客船はそもそもバリアが多く、利用できない乗り物だと思っている

旅客船事業者のイメージ

- ・「障害者」といえば、車椅子使用者や視覚障害者等のイメージが強い
- ・身体以外の困りごとがある人への対応がわからない

2. 作成の過程①

身体以外の困りごとがある人にも

「旅客船に乗って、離島を楽しんでもらいたい!!」

- ・まずは身体以外の困りごとがある子どもの親に「船の印象や困りごと」をヒアリング
 - 船旅・島旅の経験がない
 - 乗船するのに、どのような手順があるの知らない
 - どこで何をすればいいかわからない（**見通しがほしい**）
 - 船内はどうなっているのかわからない、何をすればいいかわからない
 - 事前に動画や見学ツアーなどの学習機会があると安心する
 - （同行者がいる場合）どんな人なのか知りたい など

2. 作成の過程②

- ・ヒアリングの結果を踏まえ
 - 船旅・島旅にチャレンジしてもらおう人を募集
（当時10歳の児童・親）
 - オンライン・リアルで対面
（顔合わせ、苦手なこと・楽しみなことなどを確認）
 - **事前学習用「旅のしおり」の作成**
 - ・乗船する船及び離島（伊豆大島）でのロケーション
 - ・行程の策定（移動プラン）
 - ・各所での情報収集
 - 専門家同行のもと、船旅・島旅にチャレンジ
 - **解説動画の作成**



3. 「旅のしおり」の作成ポイント



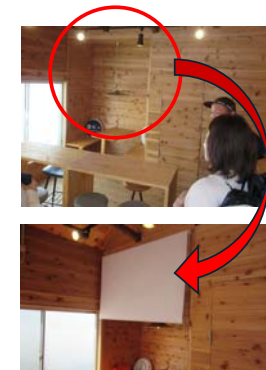
- ・年齢層に合わせたデザイン【文字使い、キャラクター、分かち書き など】
- ・行程をわかりやすく【順番①②…、矢印でつなぐ、時間（アナログ・デジタル）など】
- ・実際の写真【特にトイレ、部屋、備品など】

4. 実際に船旅・島旅にチャレンジ

「旅のしおり」で事前学習を行ったうえで、チャレンジ



成果：船旅・島旅における潜在的な可能性があることが確認できた。



成果：UD化の理解促進に貢献できた。(ロールカーテンの設置)

5. 「解説動画」の紹介



解説動画の構成（本編）

- ①イントロ（企画趣旨説明、船舶の紹介、伊豆大島の紹介など）
- ②乗船（ターミナル～乗船～船内）
- ③1日目の伊豆大島（移動、食事、買い物、散策、ふれあい、宿泊）
- ④2日目の伊豆大島（移動、食事、見学、休憩）
- ⑤まとめ

本日は、【ダイジェスト版（約4分間）】をご紹介します

【本編（約26分間）】は以下から

<https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/barifuri-ship/result.html>

6. 「手引書（冊子）」の紹介



手引書（冊子）の構成

- 1 目的
- 2 「旅のしおり」の必要性
- 3 船旅・島旅の「困りごと」とは
- 4～16 「旅のしおり」
場面ごとの作成ポイント



作り方

ポイント

UDの視点
専門家コメント

7. 今後のさらなるBF化・UD化に向けて



<https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/barifuri-ship/result.html>

エコモ財団が取り組みたいこと

- ・ 旅客船事業者（国や協会を含む）等との情報・意見交換
- ・ 情報発信 & 普及促進（セミナーの開催など）
- ・ 旅客船事業者向けバリアフリー研修の実施 など

旅客船事業者の皆様ですぐにしてほしいこと

- ・ 利用者目線でのバリアフリー化（ハード&ソフト）の確認
- ・ ソフト面のバリアフリー化の推進
情報提供（HP）の見直し（写真、サイズなど）
バリアフリー研修の実施
（※2024年4月から合理的配慮の提供の義務化）
- ・ 関係者とのネットワーク構築 など